

ブラッド・ハウディシエル

「奉仕の場」

コリント第一 12 : 27、4-7

12:27 あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。

12:4 さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。

12:5 奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。

12:6 働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。12:7 しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現れが与えられているのです。

皆さん、おはようございます。今日ここで皆さんにお会いできてうれしいです。約 2 年前に、私のお気に入りトピックについてここで説教をしました。そしてその説教をもう一度お分かちしたいとずっと思っていました。会衆の中には新しい顔ぶれも多く見かけますので、恐らく半分くらいの方が前回の説教をお聞きになっていないのではないかと思います。前回来ておられて、今日 2 度目に聞く方でも、クリスチャン生活で最も重要なテーマともいえる内容を今一度思い出すことは良いことだと思います。今日は、二年前には含めなかったこともいくつか分かち合おうと思っています。今日の説教の題は「奉仕の場」です。クリスチャン同士の集合体において、キリストのからだにあって奉仕する場所のことです。

さて、本題に入る前に、少しお話をさせてください。私は約 35 年前に、カリフォルニア州にあるバプテスト教会の教会員になりました。どの教会でもよくあるように、日曜礼拝の中で、新しい教会員を紹介する儀式がありました。礼拝が終わると、私の後ろの席に座っていた女性が私の肩をポンとたたいて言いました。その言葉を今もはっきりと覚えています。「教会員になってくれてとても嬉しいわ。歓迎します。これから、あなたの居場所を見つけることよ。この教会で自分にぴったり合う場所を見つけるの。」

2 年前に最初にこの説教をしたときは、この女性の言われたことを説教のタイトルにしました。「自分の居場所を見つける」です。皆さんにぴったり合う場所を教会の中で見つけましょう。交わりのグループやバイブルスタディ、教会の奉仕チームかもしれません。教会以外のキリスト教系のグループでの奉仕の可能性もあります。もしくは、教会関係ではなく、社会において、神の愛を未信者の方に伝えることかもしれません。私たちが学び、成長し、仕えられる自分にぴったりの場所をクリスチャンの交わりの中で見つけるチャンスはたくさんあります。

ではまず、「居場所」と訳した英語の単語「ニッチ」についてお話します。辞書には、「像や花びんなどを置く壁面のくぼみ」となっています。皆さんも見たことがあると思います。他にも辞書には、人と関連して使う用法として、「人生や職場でふさわしい場所、地位、適所」ともあります。「人生や職場でふさわしい場所、地位、適所」。これを、「教会やコミュニティでふさわしい場所、地位、適所」と言い換えられるかもしれません。私がこの言葉を使うときに指しているのは、そういう場所です。自分の居場所を見つけるとは、クリスチャン同士の集合体の中で、自分がぴったりはまるスポットを見つけるということです。適した場所です。心地よい場所かと言うと、必ずしも心地よいとは限りません。新

しいことを始めようとするときには、心地よい場所を飛び出して限界に挑戦しなくてはならない場合があります。これについては、後ほどお話することにししましょう。

では、「教会」について考えましょう。

新約聖書では、「教会」は「キリストのからだ」を指します。

コロサイ 1 : 18a 「また、御子はそのからだである教会のかしらです。」

コリント第一 12:27 「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。」

「あなたがた」というのは、信徒の集まりです。それは、地域教会を指すのかもしれませんが、世界中のキリスト教信徒を指すのかもしれませんが。いずれにせよ、クリスチャンの集合体について語っています。そして、「あなたがたはキリストのからだ」だとあります。からだという概念にはいくつかの側面があります。ひとつは、私たち、一個一個の信徒たちがひとつのからだとされていることです。キリストを信じる信仰が共通項です。私たちは、キリストが私たちの罪のために十字架にかかれ、永遠のいのちの希望を与えるために死からよみがえられた、と信じています。キリストのからだという概念のもうひとつの側面は、一人一人違っていても、私たちはこのひとつのからだの部分だということです。一致です。多様性の中にある一致です。改めて、コリント第一 12 : 27 を読みましょう。

「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。」

私たちは皆違います。性格も賜物も才能も違います。そして、一人一人にキリストのからだの一部としての役割があります。「霊的賜物」と呼ばれるものです。今日のメッセージでは、霊的な賜物を中心にお話し、クリスチャン同士の生活の中で自分の役割を果たすよう、皆さんを励ましたいと思います。

コリント第一 12 : 4-7 は、次のように語ります。

12:4 さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。12:5 奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。12:6 働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。12:7 しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現れが与えられているのです。

賜物にはいろいろの種類があり、奉仕にもいろいろの種類があり、働きにも、いろいろの種類があります。それらのいろいろな種類の賜物を、キリストを信じる信徒となったあらゆる人々に与えられるのは同じ神です。何のためでしょう。それは、「みな益となるため」です。私たちはそれぞれ、違った御霊の現れが与えられていますが、それは自分でひとり占めするものではありません。むしろ、神が賜物を与えてくださったのは、全体の益、つまり教会全体や地域社会全体が恩恵を受けるように用いるためです。このことについて考えるとき、関わるという概念を自分が集う教会での関わり限定していません。家庭で小さなお子さんを育てているママたちのことを、私はよく考えます。子育て中のママたちは、教会の奉仕に多くの時間を割いてはいない場合もありますが、人格が形成される大事な時期に次の世代を担う子どもたちを育てるといふ家族にとって大切な仕事をしています。私の母は専業主婦で、私たち 4

人の子どもを育てるのに専念してくれました。そして、町で一番評判の良い日曜学校やボーイスカウトに入れてくれました。聖書を初めてもらったのは母からで、一章一節ごとにどう読んでいけばよいかも教えてくれました。母がこうして私にくれた素晴らしい人生のスタートのおかげで、今日の私があるわけです。

いろいろな賜物は、みなのためと与えられています。私は、それは教会や家庭での関わりに限ったことではないと考えます。もっと広い意味でコミュニティを指すと思います。医師や教師で教会の奉仕に多くの時間を取らない人も、地域社会で大きく人々の生活に貢献しています。私の高校時代の理科の先生はクリスチャンでしたが、公立高校で教えていたので自分がクリスチャンであることを公言していませんでした。けれども振り返ってみると、さりげないかたちで自分の価値観を私たち生徒に伝えてくれました。そして、その影響が驚くほどしっかり私のうちに刻まれています。この先生についての話を一つしたいと思います。彼は理科の先生でしたから、「カリキュラムの中で決まった内容として進化論を教えなくてはならないけれど、進化論は宗教上の観点から難しさを感じる生徒もいると分かっているので、任意の課題を出そうと思います」と言ったのです。任意ですから、絶対ではありません。先生は、進化論と（宗教的）信仰に関わる疑問について私たちの見解を聞きたいので、課題に参加したい生徒はこのトピックについてエッセイを書いて提出するようと言いました。私もその一人です。課題が先生から返却されたとき、私の書いた内容の1つに対して、先生が余白に短いコメントを残してくれました。教会に通う十代の生徒にとっては進化論を教えられることは難題を伴い、それにもがいていた私にとってはその短いコメントでも励ましとなり、影響力がありました。私はこのシンプルな宿題に非常に感動しましたし、この理科の先生に大変感謝しています。

自分の居場所を見つけましょう。神は、神を信じるすべての人に賜物を与えてくださっています。それはみなのためです。つまり、教会、地域社会、学校、家庭が恩恵を受けるためです。クリスチャンは皆、何らかの賜物をいただいています。そして、クリスチャンコミュニティのどこかに、私たち一人一人がその賜物を用いられるぴったりの場所があります。役割には、大小の違いや、目立つ役割とそうでない役割等の違いはあります。けれども、どの役割も神の御目には大切です。それでは、賜物をそれぞれ見ていきましょう。新約聖書には、霊的賜物が挙げられている個所が以下4個所あります。

コリント第一 12 章の冒頭

コリント第一 12 章の終盤

エペソ 4 章

ローマ 12 章

この4個所を比べると、その内容が個所によって違うことに気づきます。多くの聖書注解者は、ここに挙げられている賜物は代表的なものであって、どれも完全なリストではないと言います。ここに特段挙げられていない賜物もおそらく存在するでしょう。今日は、賜物のリストをすべて読みます。いくつかの賜物について多少お話しますが、すべてを説明することはしません。今日のおもな目的は、いろいろな賜物と、聖霊によって力をいただいて教会の働きにおける役割を果たすいくつかの方法を皆さんにご紹介することです。では、コリント第一 12 : 27-28 から始めましょう。

12:27 あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。12:28 そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました。すなわち、第一に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇蹟を行う者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです。

「神は教会の中で…任命されました。」

第一に使徒
次に預言者
次に教師

これらは、土台となる働きです。新約聖書には、使徒と預言者が神のみことばを語り、エルサレム、ユダヤ、そしてローマ帝国各地で教会を創立した話が記されています。そして、そのようにしてできた教会では、教師がキリスト教信仰の基本的真理を教え、敷かれた土台の上に教会を築き上げました。ここで、エペソ 2 章が思い浮かびます。19 節で、パウロは教会を「神の家族」と呼びます。そして、20 節では、その家族が「使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。」と語ります。イエス・キリストが礎石であり、土台が使徒と預言者です。

「使徒、預言者、教師」この 3 つに続いてパウロは他の賜物も挙げます。それらは皆、使徒の働きの中で実際に用いられている様子が記されています。「奇蹟を行う者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです。」次に、エペソ 4 章を読みましょう。

4:7 しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。

4:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。

ここでも、使徒と預言者が最初に登場します。次に、伝道者です。伝道者とは、福音を人々に伝えて、教会に連れてくる人です。それから、牧師と教師があります。牧師や教師は牧者です。教会に加わって神の家族となった弟子たちを教え訓練する人です。ここでも、教会の基礎となる働きが焦点となっています。そのような奉仕者のおもな目的はなんでしょう。

4:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、

その目的は、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。聖徒とは誰でしょうか。聖徒とは、私たちです。「聖徒」というのは、優等生クリスチャンのことではありません。パウロはすべてのクリスチャン信徒を指してこう言います。「聖徒」という単語は、「取っておかれた」「聖なる」人たちという意味です。異教の世の中から取りだされ、今では神のために取っておかれる、神に属する人です。

使徒、預言者、伝道者、牧師、教師には、私たち聖徒を整えるという務めがあります。それは、私たちが教会の働きをするためです。キリストのからだを建て上げる働きをするのは、私たち、普通の教会員です。もう一度言います。教会を建て上げるのは、牧師ではありません。牧師や教師は私たち普通の教

会員を「キリストのからだを建て上げる」働きをするために整えてくれるのです。

次にご紹介する霊的賜物のリストふたつには、教会を建て上げるために私たちに与えられたあらゆる賜物が登場します。

ローマ 12：4-8「12:4 一つのからだには多くの器官があつて、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、12:5 大ぜいいる私たちも、キリストにあつて一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。12:6 私たちは、与えられた恵みに従つて、異なつた賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。12:7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。12:8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれをしなさい。」

エペソ 4 章のリストでは、賜物が、使徒、預言者、牧師等、役職のかたちで挙げられていました。けれどもローマ 12 章では、預言、奉仕、教え、勧め等、活動内容のかたちで挙げられています。これらの活動は、教会の指導的立場の人たちだけでなく、誰もが関われる活動だと思います。（預言の賜物には注意が必要です。神からの特別なことばを聞いたと思ひ込むクリスチャンがいます。けれども実際には自分の感情を本当に神から示されたものと勘違いしただけという場合があります。ですから、預言の賜物を持っていると自分で言う人がいたら、気を付けましょう。）一方、奉仕、教え、勧めをはじめとするその他の賜物は、私たち誰もが程度の違いはあつても実践に活用することができます。

ここで、奉仕が教えより先に挙げられているのは興味深い点です。人が集まる場所ではどこでも、奉仕は大切です。教会やコミュニティが秩序を保つて機能していくためには、あらゆるかたちで奉仕する人々が必要です。十二使徒たちは使徒 6 章で、教会にいる寡婦のお世話を手伝ってくれる人の必要性を感じました。そして、「聖霊に満ちた」7 人を、教会におけるこのような実用的なニーズの担当として任命しました。

皆さんも、いろいろな方法でここ OIC で奉仕できます。たくさんの働きがなされなくてはなりません。朝には、礼拝前にホールやステージの準備があります。礼拝前と礼拝中には、2 階のバルコニーで音響係が必要です。礼拝後には片付けがあります。ホール入口前には受付係がいます。そして、受付係は礼拝中も奉仕があります。そしてもちろん、シンガーや楽器を演奏してくれる賛美チームも必要です。

奉仕。その次に挙げられているのが教える人です。これは、講壇から説教を語るにとどまりません。小グループでのバイブルスタディや日曜学校を教えることも含まれます。

時々奉仕者募集のスライドが投影されます。現在 OIC では、準備、片付け、音響、日曜学校の奉仕者を募集しています。日曜学校の教師も募集中なのです。皆さんにお話したとおり、私の母は、私たち兄弟を町で一番評判の良い日曜学校に参加させてくれました。そこは、ルーテル教会でした。そこで、私はクリスチャン生活の基礎を習いました。今の私があるのは、ルーテル教会の日曜学校で築いた基礎のおかげだと言っても過言ではありません。ですから、日曜学校はとても大事だと思っています。どうぞ、日曜学校の奉仕に関わることを考えてみてください。教師として、または教えを日本語に訳す通訳者として、加わってください。

そして、アリストア牧師が導入した弟子訓練プログラムがあります。私たちは皆、クリスチャン生活やクリスチャンとして弟子となることの基本を学ぶ必要があります。これも、皆さんが関わられる働きのひとつです。大小いろんなかたちで、OIC の働きに関わる方法がたくさんあります。

また、教師、受付係、賛美チーム、役員、など正式に任命された役である必要もありません。ローマ 12 章に挙げられている賜物の中には、正式な役職を必要としないものもあります。勧めること、分け与えること、そして慈善を行うことなどです。私は牧師ではありませんが、兄弟姉妹のお見舞いで病院に行くこともあります。このリストで、勧めは英語の聖書では励ましと訳されています。兄弟姉妹を励まし、勧めるのです。ここから、私の好きな聖書箇所が思い浮かびます。私は、大学生時代にそのみことばを暗記しました。

ヘブル 10 : 24-25 「10:24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。10:25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。これは誰でもできます。そして、そうすべきです。「愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。」いっしょに集まることをやめたりしないで励まし合いましょう。」

エペソ 4 : 12 について私がお話ししたことを覚えておられますか。私たち聖徒が、キリストのからだを建て上げる働きをするのです。互いに励まし、勧め合うのは、互いを建て上げることの一環です。ある神学校の教授であり学長である人から聞いた話をお分かちします。その人はある日、教会の日曜日の夕方礼拝に参加しました。そこでは、若い説教者が説教を語っていました。その説教は、正直ひどい出来でした。神学校の学長は、その夜の夕方礼拝に行ったのは時間の無駄だったと不愉快になりました。けれども礼拝後、自分の妻がある高齢の女性を励ましている姿が見えました。妻はその女性に、寒い夜道を教会まで歩いて来てくれたことを感謝していました。学長はその夜、学びました。教会は講壇から語られる説教以上のものだというのを。教会とは、互いに励まし合う場所、「愛と善行を促すように注意し合」い、キリストのからだに属する人々を建て上げる場所だと学びました。私はその話を忘れられません。

さて、霊的賜物のリストがもうひとつあります。使徒パウロが最初に書いたリストです。コリント第一 12 章をもう一度読みましょう。4-6 節です。

「12:4 さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。12:5 奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。12:6 働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。」

8-11 節は次のように語ります。

「12:8 ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ、12:9 またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、12:10 ある人には奇蹟を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。12:11 しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」

これは興味深い内容です。そこに挙げられた賜物のいくつかはあまり話題にされません。ひとつめの「知恵のことば」から思い浮かべるのは、クリスチャンの兄弟姉妹が知恵と洞察に満ちた役に立つアドバイスをしてくれたときのことです。次に、「知識のことば」は、教えの賜物に関係しているかもしれません。9 節から、特別な「信仰」の賜物があることがわかります。私のスタディバイブルは、次のように解説します。「これは、すべてのクリスチャンが持つキリストを信じる信仰ではない。おそらく、務めを遂行するために授けられた特別な信仰を指す。」コリント第一 13:2 に記された「山を動かすほどの完全な信仰」に関連しているのかもしれませんが。これで、霊的賜物の大まかな説明は終わりです。私のスタディバイブルには、今日読んだ 4 つの聖書箇所にある霊的賜物の表があります。お話したように、これはすべての賜物の完全なリストではありません。どちらかと言うと、クリスチャンコミュニティにおける奉仕のために、聖霊が私たちに力を与えてくださるあらゆる方法の代表例です。

ESV スタディバイブル：パウロの書簡に登場する御霊の賜物

コリント第一 12:28	エペソ 4:11	ローマ 12:6-8	コリント第一 12:7-10
使徒	使徒		
預言者	預言者	預言	預言
	伝道者		
			霊を見分ける力
			知恵のことば
教師	牧師と教師	教え	知識のことば
		勧め	
奇蹟			奇蹟を行う力
いやしの賜物			いやしの賜物
助ける者		奉仕	
収める者		指導	
異言を語る者			異言を語る者
			異言を解き明かす力
		分け与える	
			信仰
		慈善	

Copyright 2006-2017 Crossway

何年も前になりますが、前牧師と霊的賜物について話したことがあります。多くの人は、自分の賜物が何か知ろうとします。そして、たくさんの質問に答えれば自分の賜物がわかると謳ったテストを作っている団体もあります。私も 20 代と 40 代のときに霊的賜物を見つけるテストを受けたことがあります。どちらも、その設問に少し疑問を持ちました。15 年前のことですが、OIC の以前の牧師も私と同じで、そういうテストには懐疑的だということが話していてわかりました。彼の意見は、霊的賜物が何か見つ

ける一番良い方法は、自分の教会でいろんなことを試して、どれが一番うまくいくかだと思ふとのことでした。試してみたけど合わなかったという結果を恐れる必要はありません。その奉仕を辞めて他の奉仕を試すのは恥ずかしいことではありません。

35年前、カリフォルニアの教会で女性が私を新しい教会員として歓迎してくれました。そのとき、「自分の居場所を見つけなさい」とアドバイスをもらいました。自分にぴったりの場所を教会で見つけるということです。私はそのときすでに、独身者のグループに入っていて、そのグループが開いていた火曜日夜のバイブルスタディと金曜夜のバレーボールにも参加していました。けれども、そのときから、教会の働きで奉仕できる場所はどこかと考え始めました。すると、教会のアワナグループが奉仕者を必要としていることがわかりました。アワナとは、ボーイスカウトやガールスカウトのクリスチャン版です。教会主催で、聖書の教えに基づいたプログラムを行います。その内容のひとつが聖書暗唱でした。奉仕者は、子どもたちの暗唱聖句の聞き役です。それが、私の教会での初めての奉仕でした。子どもたちの暗唱聖句の聞き役です。次に、その教会の牧師から、男性向けリトリートの企画を頼まれました。そうやって、さらに奉仕の経験を得ました。

いつか、私がどういう経緯で日本に来たかお話しします。長い話になりますので、また別の機会にしましょう。1992年、私は大阪に住み始めました。高校での英語教師の職を得、大阪インターナショナルチャーチに通い始めました。そして少しずつ、ここでいろいろな奉仕に関わりました。当時は独身者のグループもあって、月に一度のイベント企画にも関わりました。その後、1996年には、無牧の時期に水曜日夜のバイブルスタディを数か月間教えました。不安もありましたが、その役に自分から名乗り出ました。教える人が必要でしたし、きっとできるだろうと思ったからです。

先ほど、自分の賜物を見つける良い方法は、奉仕を試して自分に適しているのは何かを見つけることだとお話しました。1996年に、バイブルスタディを短期的に教えるリーダーが必要だったので、私は自分からその役をかってでました。そして、自分に向いていることがわかりました。それで、2000年以降も、バイブルスタディを頻繁に教えました。

2004年にOICがこのホールに引っ越してきてからすぐ、私は音響の奉仕を手伝いました。私は耳があまりよくありませんが、細かいほうですし、家族はエンジニアが多いので、おそらくできるだろうと思いました。完璧ではありませんが、なんとかこなしています。

最近では、皆さんもご存知の通り、私は時折説教もします。5年から10年くらい前なら、そんなことができるとは思っていませんでした。けれども、4年前にアリスティア牧師から説教をしてくれないかと依頼を受けたとき、冷静に「お受けします」と答えました。神学校は出ていませんが、大学時代から一生懸命聖書を学んできました。聖書を読み、信仰書を読み、あらゆる説教をテープやiPodで聞いてきました。その間に、たくさん知識を吸収しましたから、それを皆さんにお分かちしているわけです。最近ではこういうかたちで奉仕させていただいています

「自分の居場所を見つけましょう。」皆さんの居場所は、私の居場所とは違うでしょう。一人一人、違った能力や賜物があります。けれども、聖霊の力によって、自分に合う場所を見つけることができるはずで、完璧でなくても大丈夫です。自分の役割は小さくてそれほど大切ではないと思えても、がっかりしないでください。神にとっては、すべての務めが大切です。私たち全員が、キリストのからだのどこかに自分の居場所を見つけられることを願います。

今日のメッセージはこれまでです。神の祝福が皆さんにありますように。